

彼達と話が出来たから聞いて見ると、もう20～30年程前に他の応援団とトラブル事件を起こしたから学校側は男子学生の応援団をなくしてしまったと残念がっていた。又、現代の学生はもう当時と違って厳しい規律や拘束に耐えられなくなってしまって、入団する学生はめっきり減ってしまっているとのこと。

そういえば、日大以外の応援団も男子学生より女子学生の方が多い。なんか応援風景も全く違ったものになったのだった。40年前とはまあ違っていても仕方がないのだが……。なんか淋しい気持ちになった。

それでも雨の中、彼女たちは笑顔で声高く歌い、踊っている。もう1時間以上応援しっぱなしだ。とても元気がいいと思っていると先頭が白バイ2台、パトカー1台それとテレビの報道車の後ろから急な坂道を走ってきた。先頭は、順天堂大学だった。世界と闘える長距離、マラソンランナーの育成、強化のために距離が伸びることになったのがこの5区。2.5km伸びて23.4kmとなった。山登りの特性だけではこの区間を務めることは難しくなり、総体的に力のあるランナー、エースをここに配置するチームが多くなってきている。標高差850mを一気に駆け上がる難コースにしてこの箱根駅伝の看板区間。ランナーの向き、不向きが顕著で、次の6区(下り坂)と並んでスペシャリストを生む区間でもある。曲がりくねった急な登りが続き、カーブが多いので選手のコース取りが面白い区間なのだ。トップの選手は順大の今井正人選手で前年度第81回もこの5区を驚異的な区間新記録で走っている。すごい。この山登りで、もう彼は5人抜きで来ている。ゴール近くだったから今井選手は苦しそうに走っている。沿道には、びっしり大勢の人達が「ガンバレー！イマイ！」と選手の名前を叫んでいる。すぐ後ろから又、選手が走ってくる。次々と苦しそうに雨で全身びしょりで。なんか小生も他校の選手にも応援している。5番目に日大の選手が来た。下重選手だ。やはり、白バイ2台とパトカー・報道車の後ろから来た。チアガール達も大きな声で「シモジユウ」と叫んでいる。日大は2区で1位から16位まで落ちてしまっていたから、まさかこの5区で5位で来るなんて信じられなかった。周りの日大応援団の連中も喜んで叫び声を上げていた。思わず目頭が熱くなってきた。やはり箱根駅伝は箱根で観るのが一番いい。東京で観るのはとは大違い。すごく急な坂道を苦しそうに白バイに先導され、大勢の沿道の人々に声をかけられ走っている選手はとても幸せ者だと思った。その沿道には、地元の小学生達が作ったと思われる大きな応援旗がたくさん立てられている。順位なんてあまり関係ないと思った。今年で82回を迎えるこの駅伝はもう新春の国民的行事としてすっかり定着している。日本テレビでは、2日間で14時間以上の完全生中継をしているほど人気のスポーツなのだ。

